


平成15年度 感染症危機管理研修会

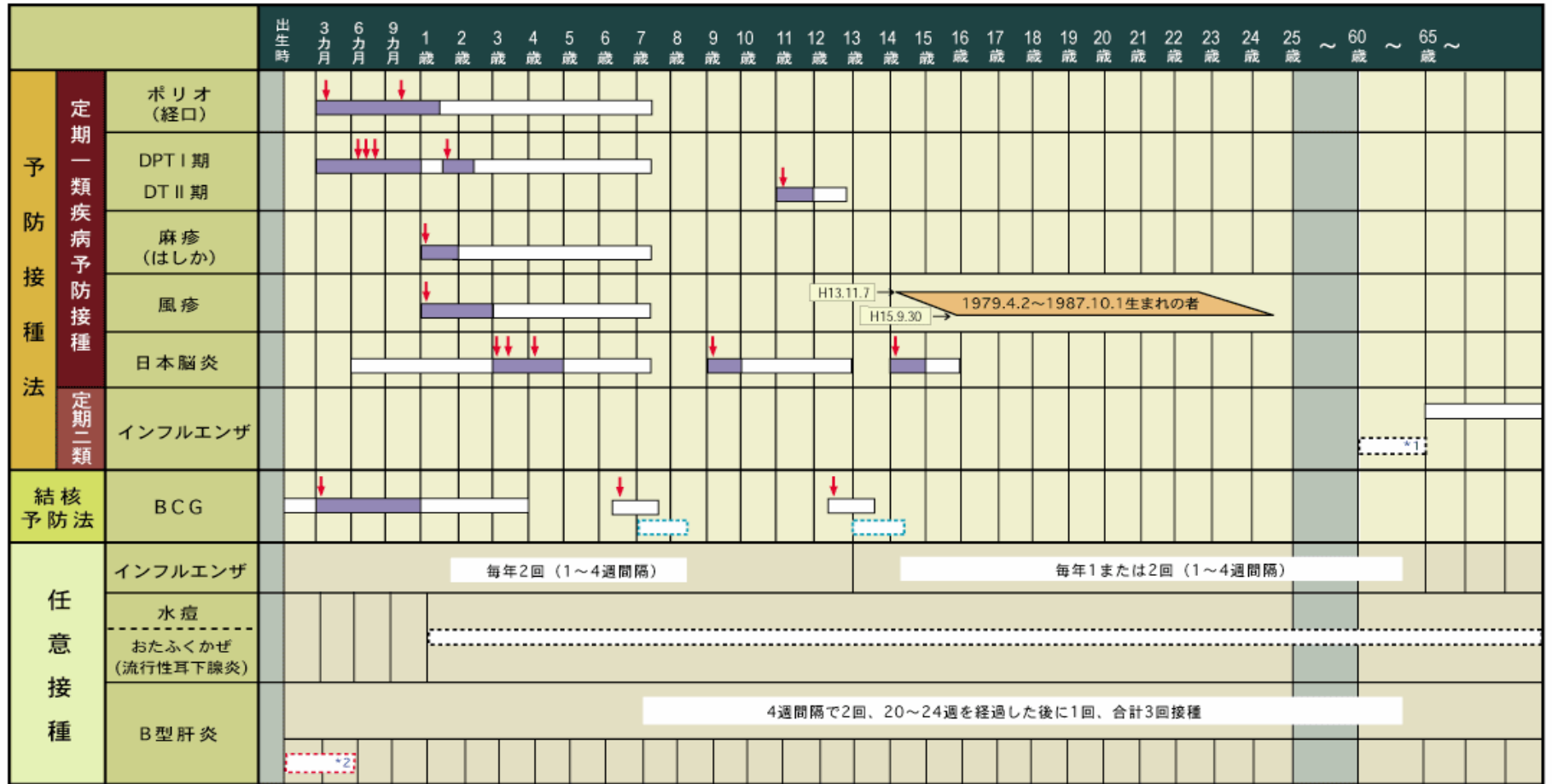
わが国の麻疹・風疹の現状と対策



国立感染症研究所 感染症情報センター
多屋 馨子

平成15年9月18日（木）

日本の定期/任意予防接種スケジュール2002年



↓ 接種 ■ 通常接種が行われている年齢 □ 接種が定められている年齢 □ 接種年齢 □ ツ反陰性児への再接種 □ 母子感染防止事業
 ■ 平成15年9月30日までの経過措置

*1 60歳以上65歳未満の者であって一定の心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害を有するもの

*2 妊娠中に検査を行い、HBs抗原陽性 (HBe抗原陽性、陰性の両方とも)の母親からの出生児は、出生後できるだけ早期及び、生後2ヶ月にHB免疫グロブリン(HBIG)を接種、ただし、HBe抗原陰性の母親から生まれた児の場合は2回目のHBIGを省略しても良い。更に生後2,3,5カ月にHBワクチンを接種する。生後6ヶ月後にHBs抗原及び抗体検査を行い必要に応じて任意の追加接種を行う (健康保険適用)。

今年のスケジュールです。

		出生時	3カ月	6カ月	9カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	60歳	65歳	
予防接種	定期一類	ポリオ(経口)	↓	↓	↓	↓																											
	類疾病	DPT I期	↓	↓	↓	↓																											
		DT II期																															
	種	麻疹(はしか)				↓																											
風疹					↓																												
定期二類	日本脳炎																																
	インフルエンザ																																毎年1回
結核予防法	BCG	↓																															
任意	インフルエンザ																																毎年2回(1~4週間隔)
	水痘																																毎年1または2回(1~4週間隔)
	おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)																																
	B型肝炎																																4週間隔で2回、20~24週を経過した後に1回、合計3回接種
種	A型肝炎																																2~4週間隔で2回、24週を経過した後に1回、合計3回接種



推奨年齢が生後12-15か月に!

小中学生のBCGが廃止

↓ 接種 ■ 通常接種が行われている年齢 □ 接種が定められている年齢 ▨ 接種年齢 ▨ 母子感染防止事業 ■ 平成15年9月30日までの経過措置

*1 60歳以上65歳未満の者であって一定の心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害を有するもの
 *2 妊娠中に検査を行い、HBs抗原陽性（HBe抗原陽性、陰性の両方とも）の母親からの出生児は、出生後できるだけ早期及び、生後2ヶ月にHB免疫グロブリン(HBIG)を接種、ただし、HBs抗原陽性の母親から生まれた児の場合は2回目のHBIGを省略しても良い。更に生後2,3,5か月にHBワクチンを接種する。生後6ヶ月後にHBs抗原及び抗体検査を行い必要に応じて任意の追加接種を行う（健康保険適用）。

AMERICAN ACADEMY OF PEDIATRICS

POLICY STATEMENT

Organizational Principles to Guide and Define the Child Health Care System and/or Improve the Health of All Children

Committee on Infectious Diseases

Recommended Childhood and Adolescent Immunization Schedule—United States, 2003

PEDIATRICS Vol. 111 No. 1 January 2003

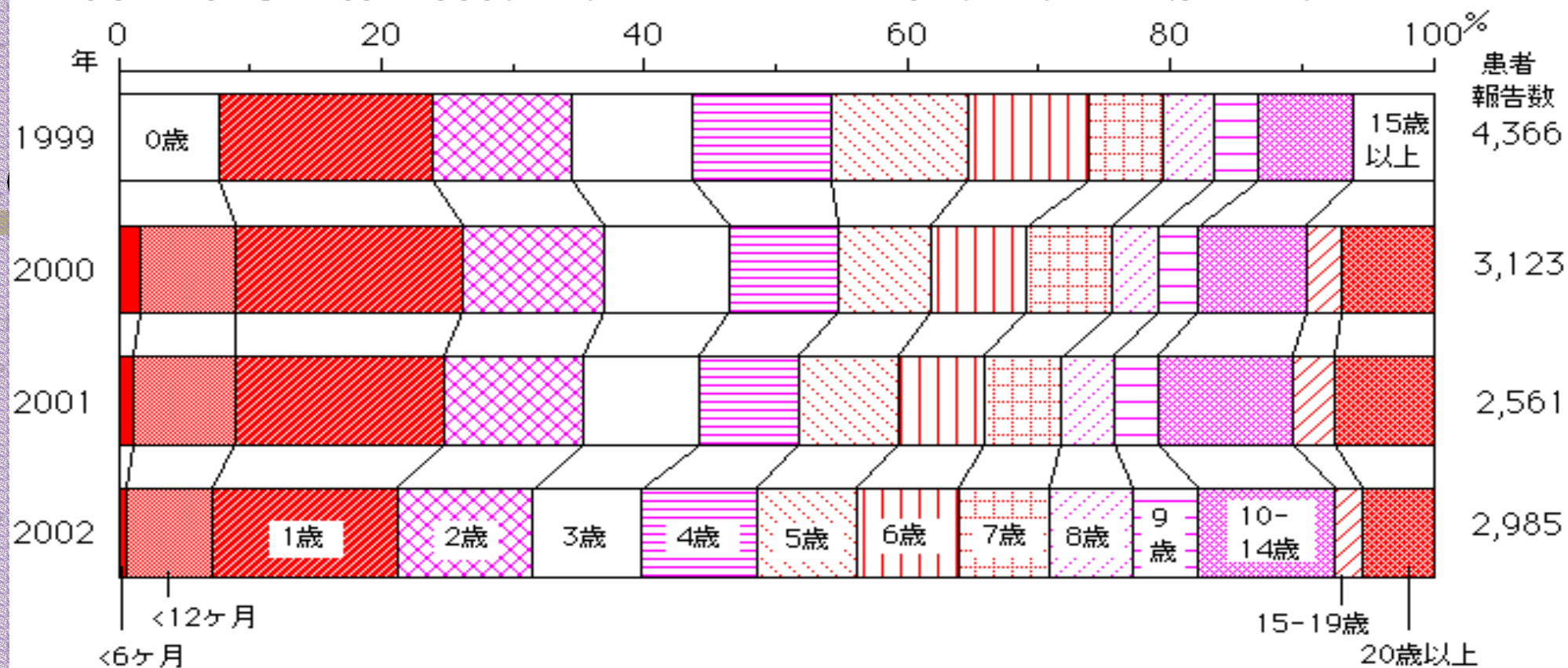
Recommended Childhood and Adolescent Immunization Schedule -- United States, 2003

Vaccine	Age	range of recommended ages				catch-up vaccination				preadolescent assessment			
		Birth	1 mo	2 mos	4 mos	6 mos	12 mos	15 mos	18 mos	24 mos	4-6 yrs	11-12 yrs	13-18 yrs
Hepatitis B ¹		HepB #1	only if mother HBsAg (-)		HepB #2			HepB #3		HepB series			
Diphtheria, Tetanus, Pertussis ²			DTaP	DTaP	DTaP	DTaP				DTaP	Td		
<i>Haemophilus influenzae</i> Type b ²			Hib	Hib	Hib	Hib							
Inactivated Polio			IPV	IPV	IPV					IPV			
Measles, Mumps, Rubella ⁴						MMR #1				MMR #2	MMR #2		
Varicella ⁵						Varicella			Varicella				
Pneumococcal ⁶			PCV	PCV	PCV	PCV			PCV	PPV			
Vaccines below this line are for selected populations													
Hepatitis A ⁷										Hepatitis A series			
Influenza ⁸					Influenza (yearly)								

わが国の風疹の現状とその対策



図2. 風疹患者の年齢分布, 1999~2002年 (感染症発生動向調査)



(2003年1月31日現在報告数)



Infectious Agents Surveillance Report

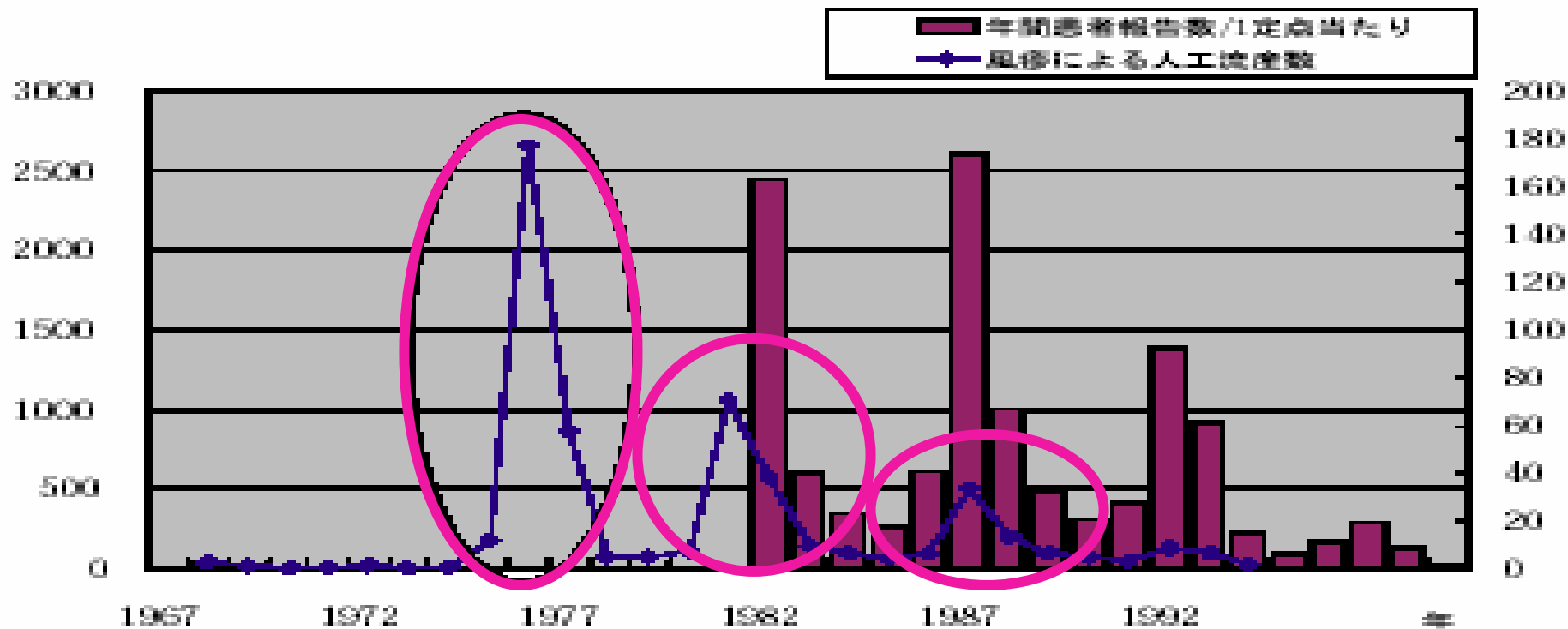
1歳が一番多いですが、小学校低学年までの小児で約80%を占めています。

風疹ワクチンの目的は？

- 1 先天性風疹症候群の予防
- 2 かかると稀に血小板減少性紫斑病や脳炎という重い合併症を併発することがあり、大人でかかると子供より重症

風疹が流行すると、先天性風疹症候群の赤ちゃんが生まれることを恐れて、人工流産が増えています。

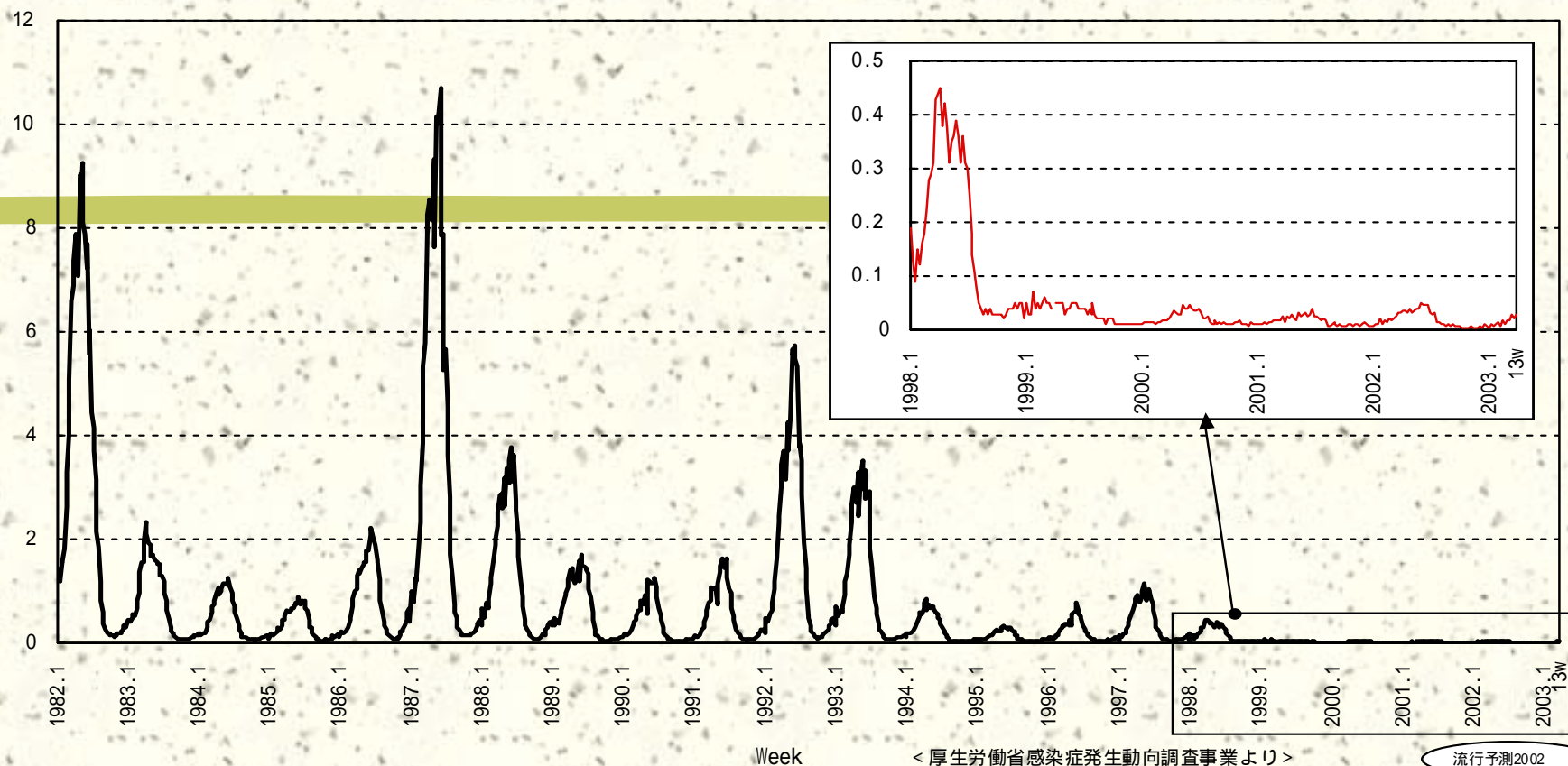
まだ見ぬ命がこんなに亡くなっています。



年間患者報告数/10万点当たり

円内の1975-1977年には全国的な風疹大流行があった。その為に先天性風疹症候群児(CRS)の出産を恐れて多くの人が人工中絶を行った。1981年以前は、患者数が調べられていないため定点当たり患者報告数不明。

週別定点あたり風疹患者報告数(1982年1週～2003年13週)

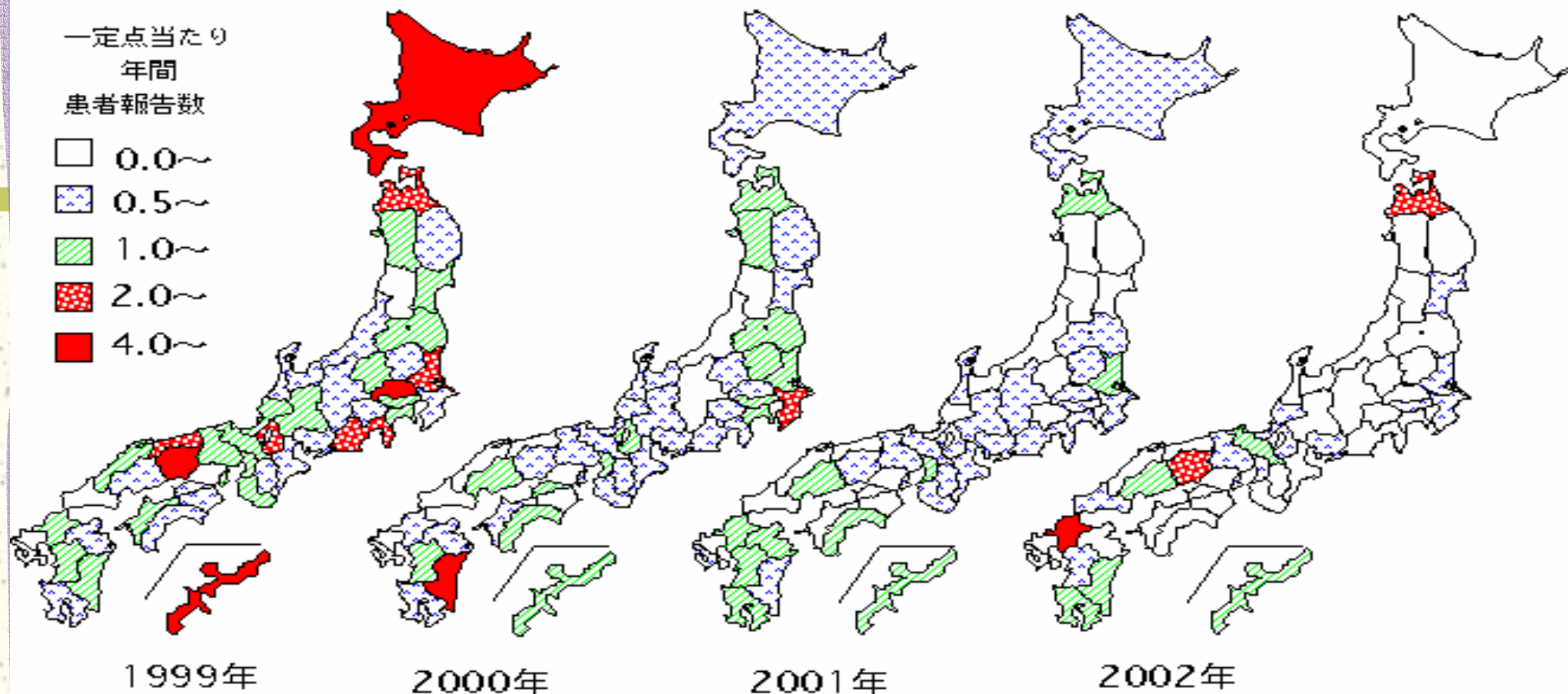


流行していない今こそ！ワクチンの時期です。

1982年、1987年、1992年、1997年のような流行が来ない内にワクチンを受けましょう。

IDSC

図3. 年別都道府県別風疹患者発生状況, 1999年~2002年

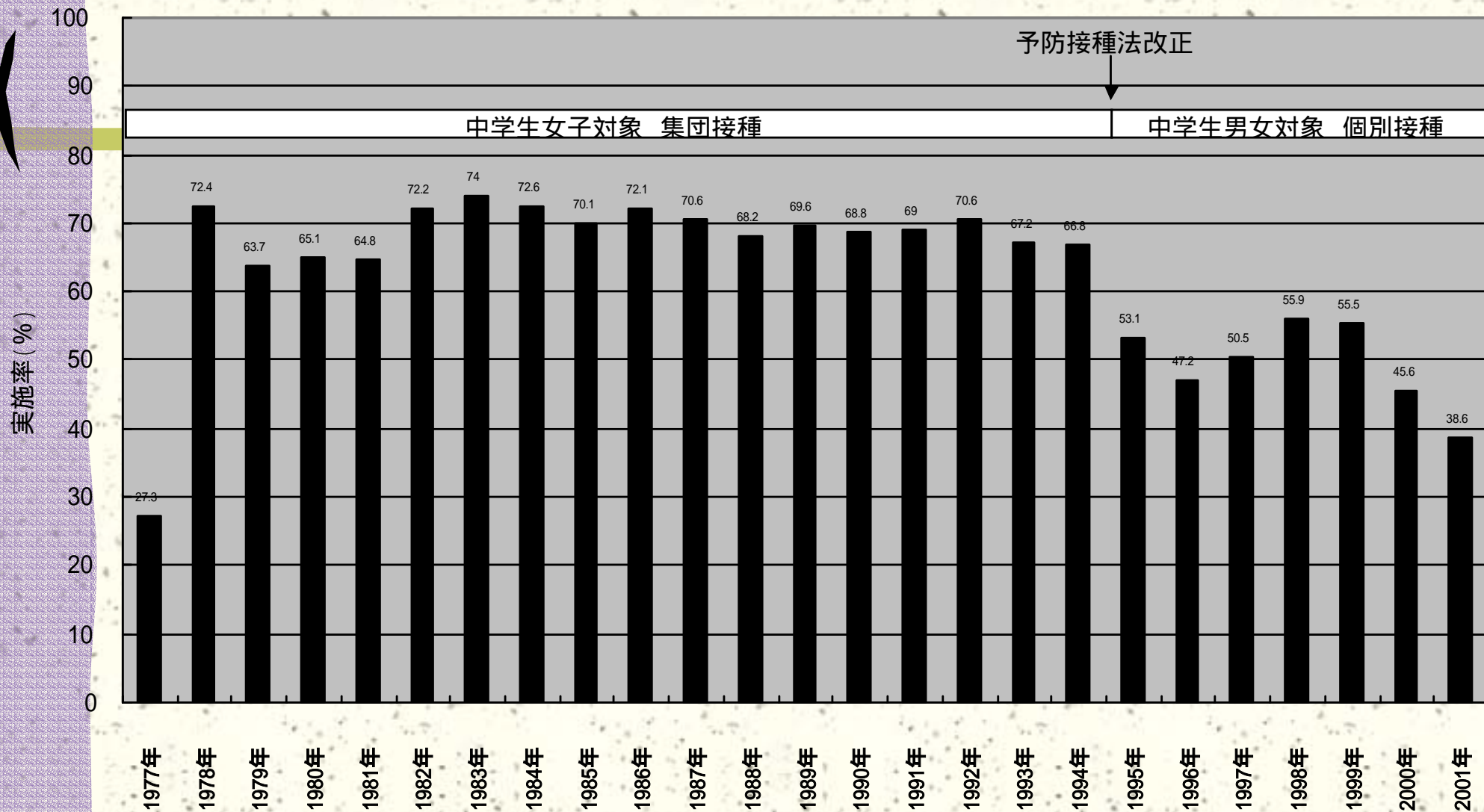


(感染症発生動向調査:2003年1月31日現在報告数)

IASR

Infectious Agents Surveillance Report

中学生に対する風しんワクチン実施率(1977~2001年)(厚生労働省)



感染症流行予測調査事業概要

～ 風疹 ～

風疹

調査時期：当該年度の7～9月

調査対象及び地区の選定：

宮城県、埼玉県、新潟県、長野県、三重県、島根県、山口県、高知県、福岡県、沖縄県につき一地区を選定。

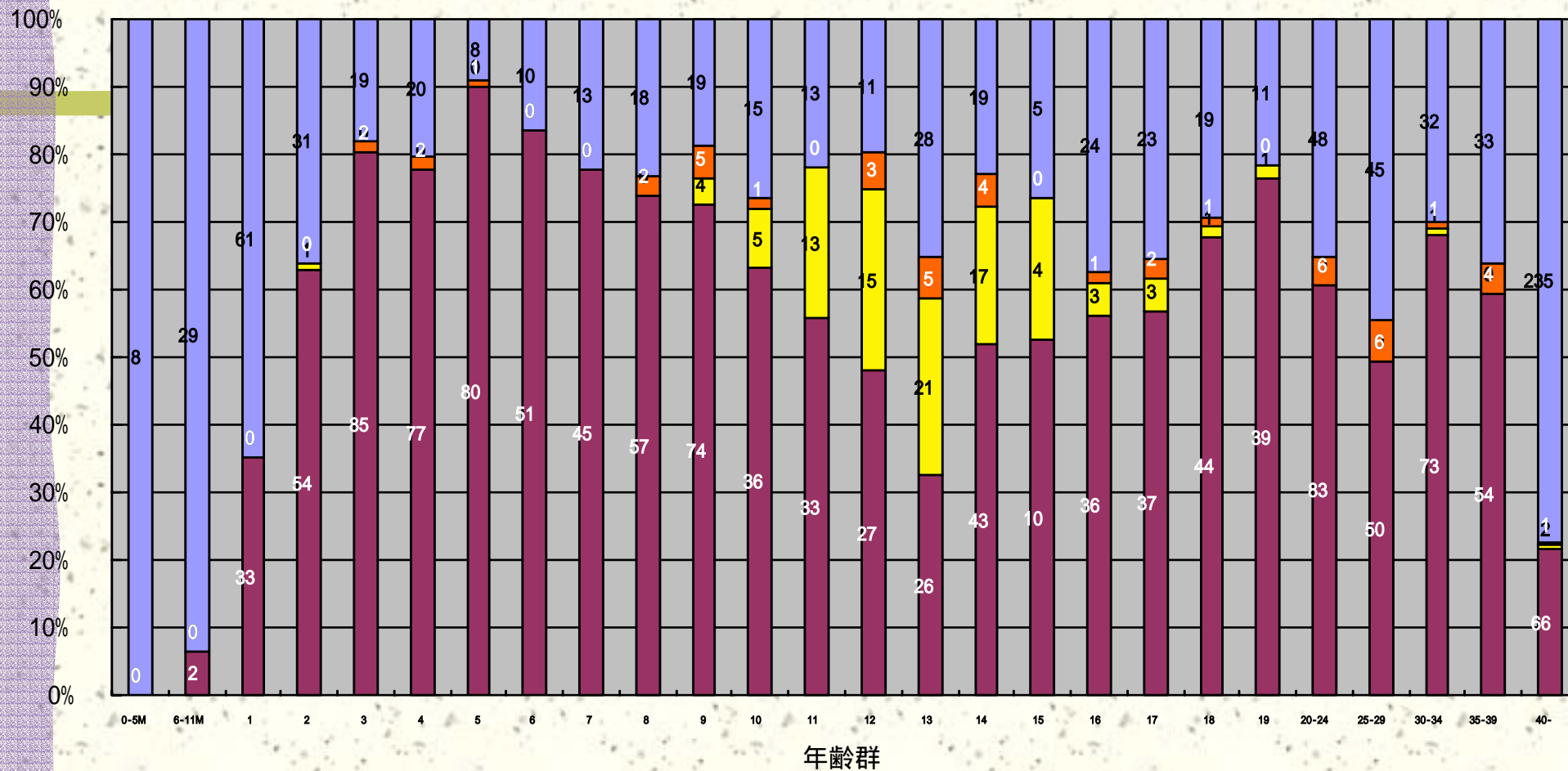
年齢区分：0～4歳、5～9歳、10～14歳、15～19歳、20～24歳、25～29歳、30～34歳、35～39歳、40歳以上の9区分より男女各20名ずつ、計360名。

調査事項：血清中の風疹赤血球凝集抑制抗体価(HI抗体価)測定。**予防接種歴**。
生年月日、性別、採血日、職業、出生地、居住期間、外国滞在(国名)。

予防接種歴 (次からのグラフの色に相当、不明(黒)は除く)

- # 麻疹あるいは風疹(+)**かつ**MMR(+)
- # 麻疹あるいは風疹(+)**かつ**MMR(-)
- # 麻疹あるいは風疹(+)**かつ**MMR不明
- # 麻疹あるいは風疹(-)**かつ**MMR(+)
- # 麻疹あるいは風疹(-)**かつ**MMR(-)
- # 麻疹あるいは風疹(-)**かつ**MMR不明
- # 麻疹あるいは風疹**不明****かつ**MMR(+)
- # 麻疹あるいは風疹**不明****かつ**MMR(-)
- # 麻疹あるいは風疹**不明****かつ**MMR不明

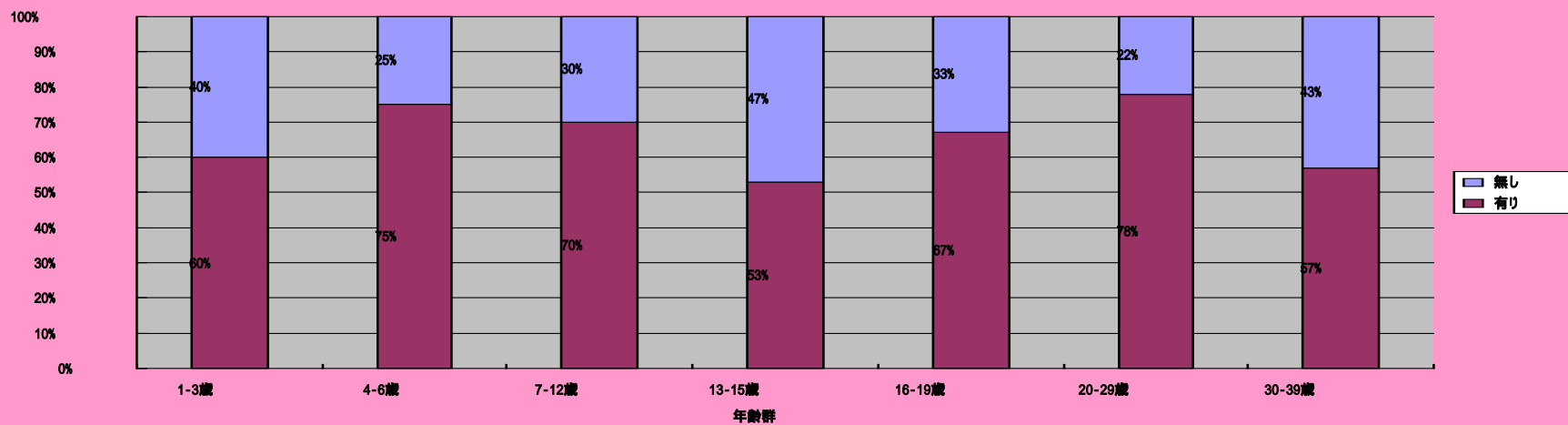
風しんワクチンMMRワクチン接種率、2001年度 計2,155名



■ 風疹 ■ MMR ■ 風疹+MMR ■ なし

男女別年齢群別風しんワクチン接種率

女性



男性

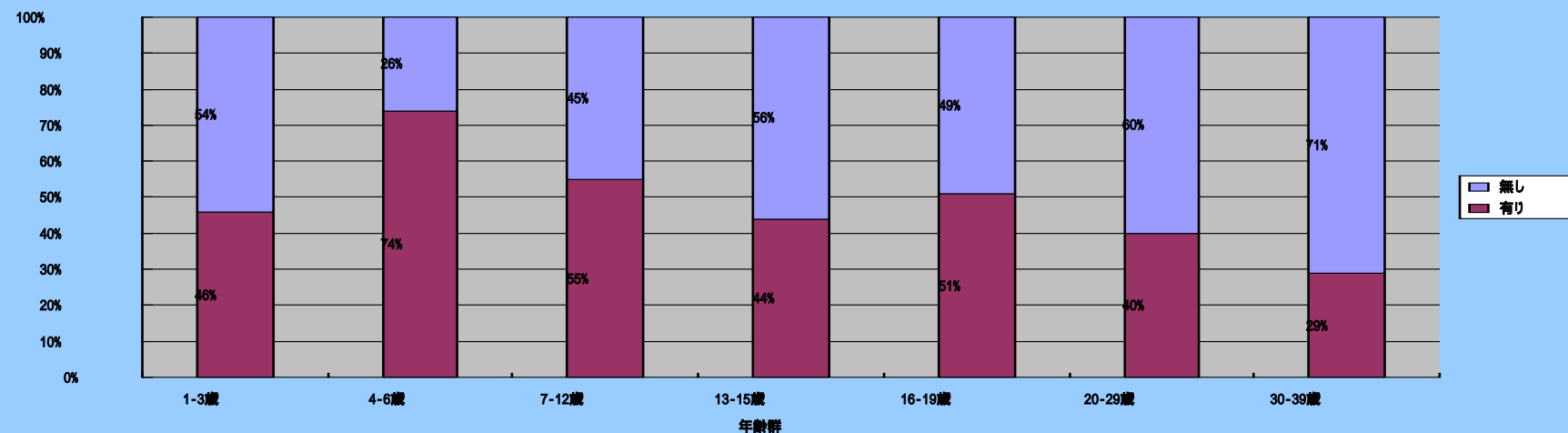
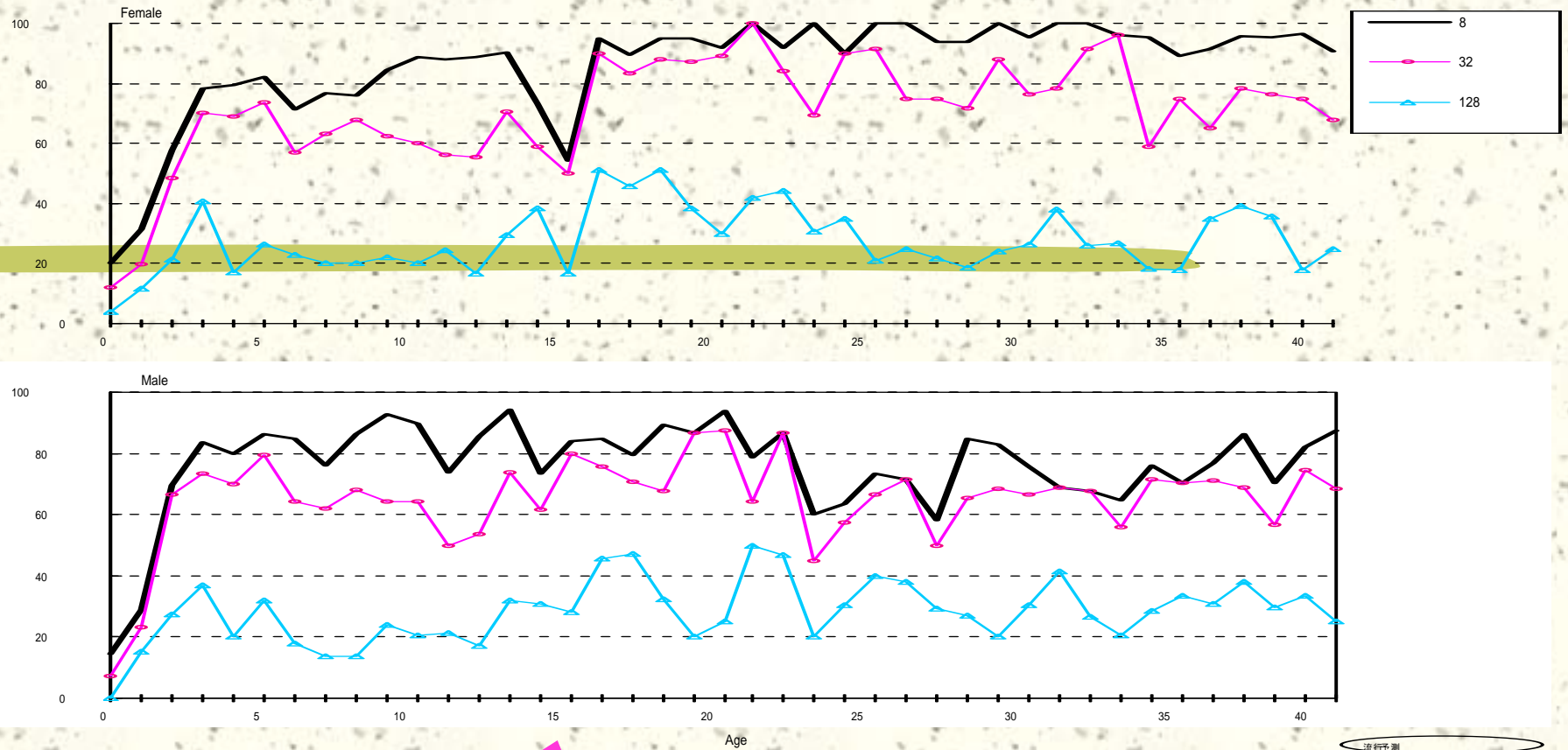
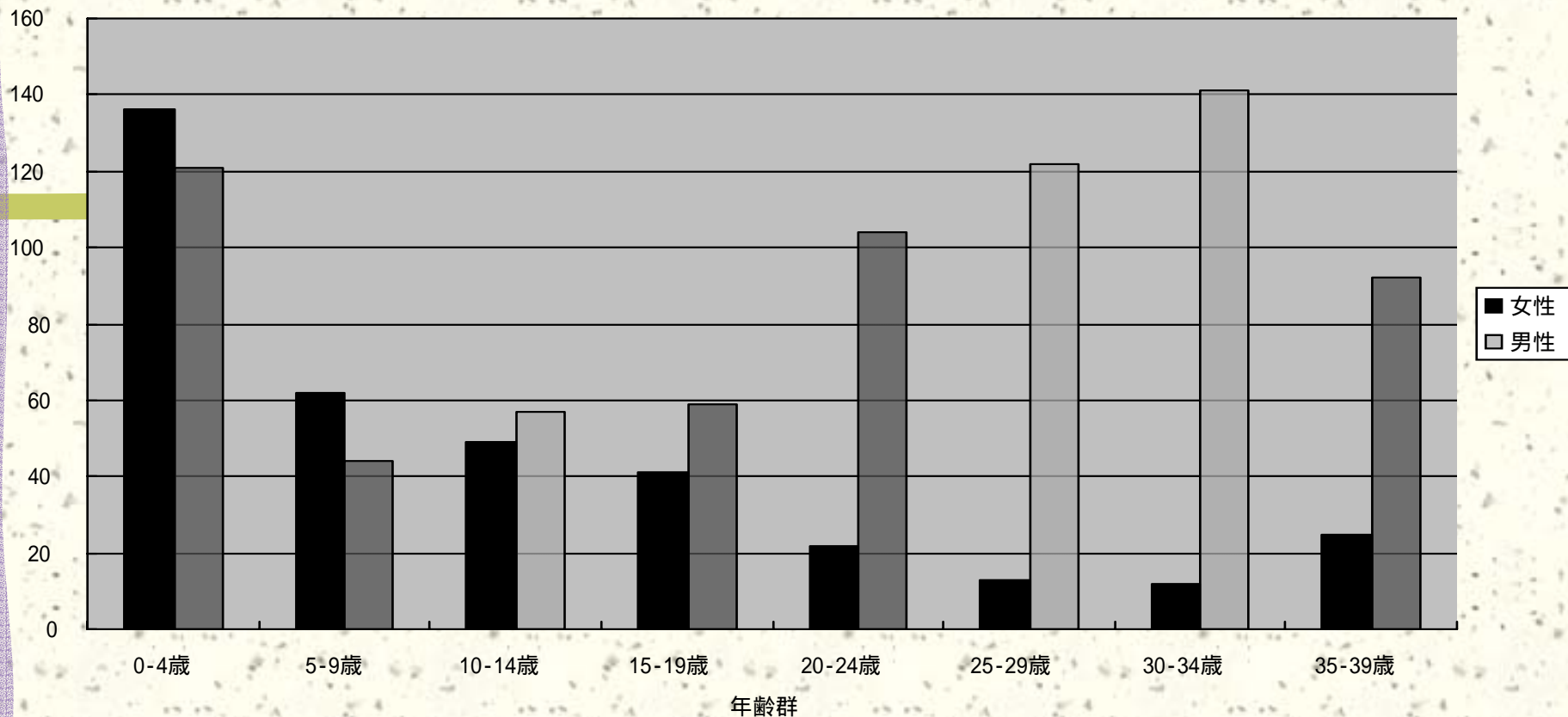


図1. 年齢別風疹HI抗体保有状況, 2001年
Fig.1 Age distribution of Rubella HI antibody



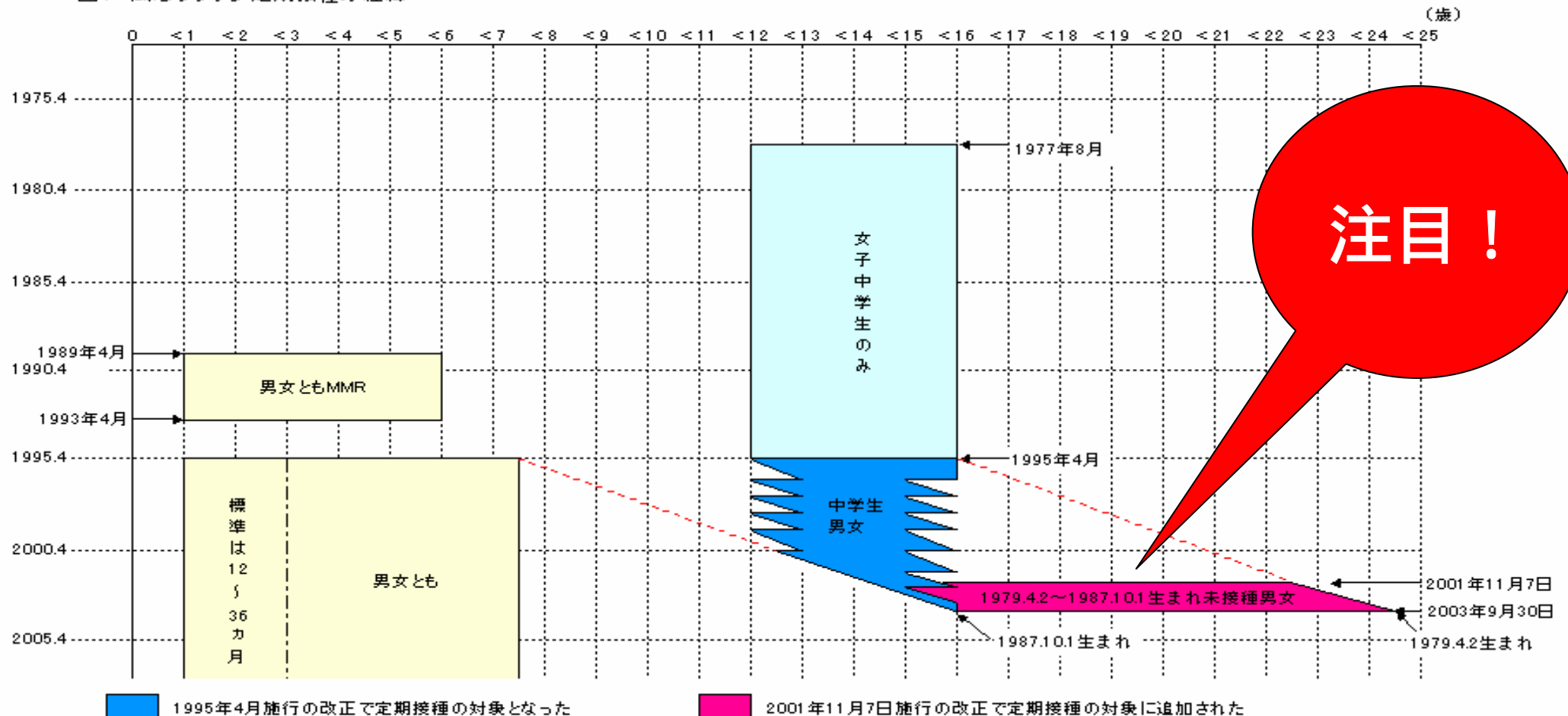
14~15歳の女性の抗体（免疫）保有率が特に低いです！このまま10年経つと・・・

0-39歳 推計風疹感受性人口(2001年度感染症流行予測調査より)



0～39歳までの**女性**で**風疹の免疫**を持っていない人は**350万人**を越えています。
このうち出産年齢である**20～39歳**の**女性**で**風疹の免疫**を持っていない人は**70万人**を超えています。**男性**は**女性**より更に多く、**20～39歳**の**男性**で**風疹の免疫**を持っていない人は**450万人**を越えています。

図1 風疹ワクチン定期接種の経緯



注目!

IASR

Infectious Agents Surveillance Report

IDSC

昭和54年4月2日～昭和62年10月1日生まれの方
 (今日15歳11か月～24歳5か月)、今年の9月30日まで(あと12日)なら
 定期接種(公的負担)で受けられます!! それ以降は任意接種(自己負担)です。

風疹ワクチンを受けましょう。

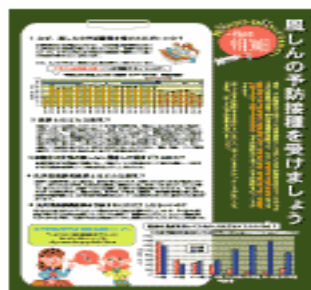
全国流行していない今こそ！チャンスです。
CRSの患者さんも発生しています。

風しんの予防接種を受けましょう



現在、予防接種法に基づいた定期接種として風しんの予防接種を受けることができるのは生後12か月～90か月未満の小児です。ただし平成15年9月30日までならば、昭和54年4月2日生まれ～昭和62年10月1日生まれの方（平成15年6月2日現在、15歳8か月～24歳2か月の男女）も予防接種法に基づいた予防接種を行うことができます。

風しんの予防接種をまだ受けていない人、風しんにまだかかったことがない人は、是非今、風しんの予防接種を受けましょう。



←キャンペーンポスターのダウンロードができます [PDF版/752K]

*ポスターを開くにはAdobe アcroバット・リーダーが必要です。

風疹の現状と今後の風疹対策について ▶▶

キャンペーンポスター

ご必要の先生は
ご連絡下さい。

IDSC

風しんの予防接種を受けましょう

～9月30日

1. 必要。風しんは予防接種を受けることが大切です

2. 風しんは社会全体の健康を守るために必要です

3. 妊婦やその家族は必ず接種を受けることが大切です

4. 乳児や高齢者は必ず接種を受けることが大切です

5. 学校や職場で必ず接種を受けることが大切です

年齢	接種済	未接種
0歳児	20	10
1歳児	15	8
2歳児	10	5
3歳児	5	3
4歳児	3	2
5歳児	2	1
6歳児	1	1
7歳児	1	1
8歳児	1	1
9歳児	1	1
10歳児	1	1
11歳児	1	1
12歳児	1	1
13歳児	1	1
14歳児	1	1
15歳児	1	1
16歳児	1	1
17歳児	1	1
18歳児	1	1
19歳児	1	1
20歳児	1	1

年齢	接種済	未接種
0歳児	15	5
1歳児	10	3
2歳児	5	2
3歳児	3	1
4歳児	2	1
5歳児	1	1
6歳児	1	1
7歳児	1	1
8歳児	1	1
9歳児	1	1
10歳児	1	1
11歳児	1	1
12歳児	1	1
13歳児	1	1
14歳児	1	1
15歳児	1	1
16歳児	1	1
17歳児	1	1
18歳児	1	1
19歳児	1	1
20歳児	1	1

必要の先生は
ご連絡下さい。

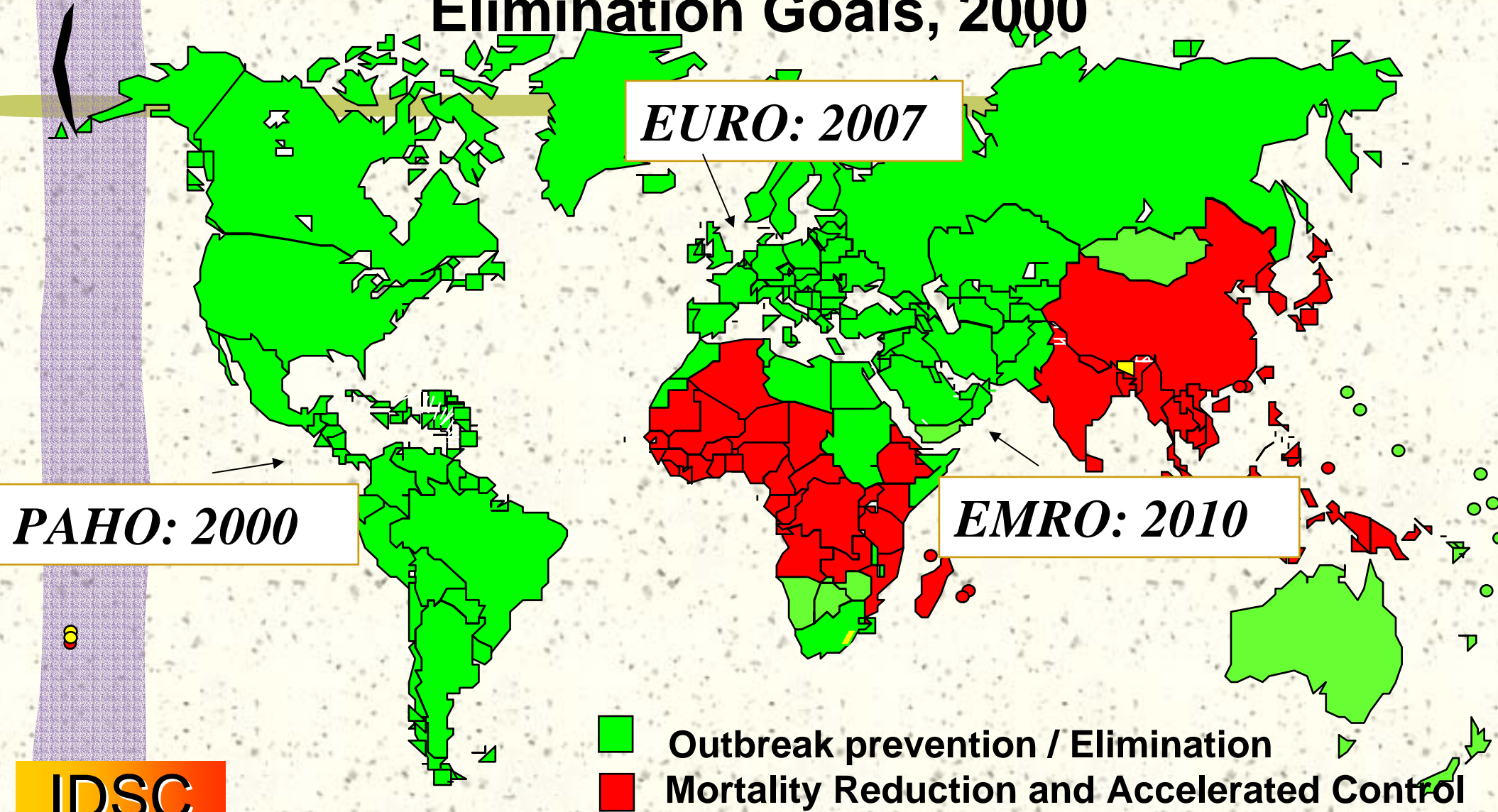
Illustrated by S. Matsuoka IDSC

Illustrated by S. Matsuoka IDSC

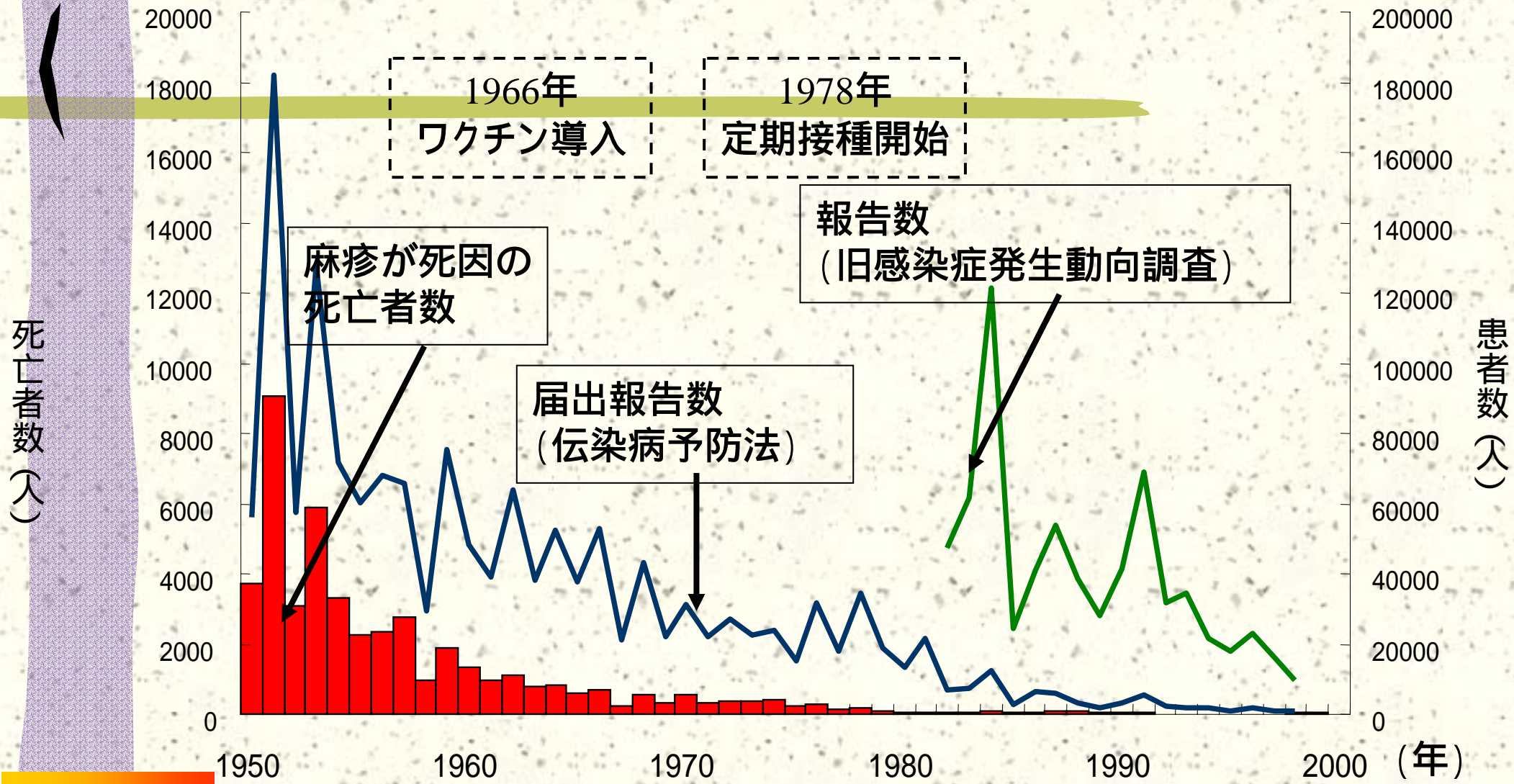
わが国の麻疹の現状とその対策



WHO Regions and Countries with Measles Elimination Goals, 2000



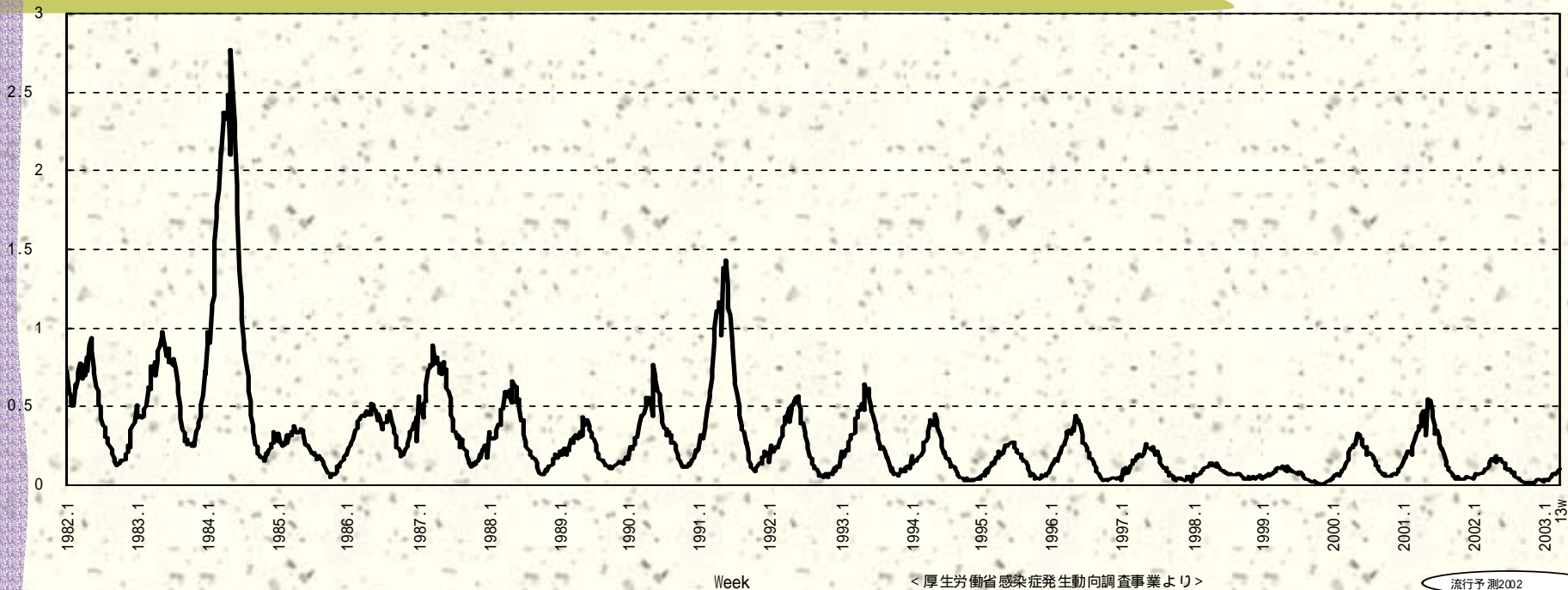
麻疹の患者数と死亡数(人口動態統計より)



週別小児科定点あたり麻疹患者報告数 (1982-2003年13週)

図6. 週別定点あたり麻疹患者報告数(1982年1週~2003年13週)

Fig.6 Weekly measles reported cases per sentinel (1982.1w~2003.13w)



過去10年間で2001年は2番目に大きい流行
年間推計10-20万人の麻疹患者が発生している！
米国は年間約100人！！